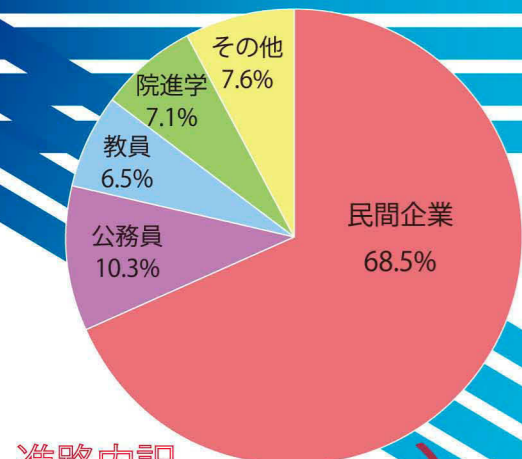


進路事情

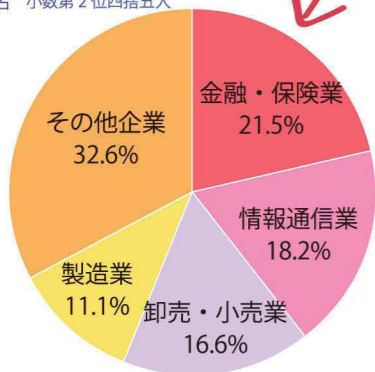


進路内訳

計 184 名 小数第 2 位四捨五入

民間企業内訳

計 126 名 小数第 2 位四捨五入



2016 年度就職先一覧

<大学院進学>

大阪市立大学、首都大学東京、京都大学、九州大学、筑波大学

<公務員>

大阪府、奈良県、兵庫県、滋賀県、愛知県、枚方市、堺市、吹田市、奈良市、神戸市、斑鳩町、大阪労働局、造幣局、皇宮警察本部、神戸家庭裁判所

<教員>

大阪府、和歌山県、奈良県、香川県、兵庫県

<医療・福祉>

国立病院機構近畿グループ、日本年金機構、京都老人福祉協会

<運送業・郵便業>

日本貨物航空、阪神電気鉄道、JALスカイ大阪、ゼロ、山九

<卸売・小売業>

イズミヤ、ジョヴィ、トーハン、ジェイアール西日本伊勢丹、日本出版販売、フジデン、ニトリ、たち吉、ゴードー、和歌山日産自動車、京阪ザ・ストア、バル、飯田グループ、粟井機鋼、山屋、山文商事、東和エンジニアリング、メガネトップ、愛眼

<教育・学習支援業>

ケーイーシー、成学社、新教育総合研究会

<建設業>

積水化学工業、朝日エティック、鹿島建設

<金融業・保険業>

松阪農業協同組合、兵庫県信用農業協同組合連合会、三井住友銀行、損害保険ジャパン日本興亜、近畿労働金庫、紀陽銀行、阿波銀行、大同生命保険、ゆうちょ銀行、みずほフィナンシャルグループ、池田泉州銀行、京都銀行、近鉄グループホールディングス、近畿大阪銀行、三井住友海上火災保険、日本銀行、かんぽ生命保険、三菱東京UFJ銀行、新生フィナンシャル、野村證券、大和証券、住友生命保険相互会社、リソナホールディングス

<情報通信・マスコミ>

三菱総研DCS、讀賣新聞東京本社、テクニカルソフトウェア、日本放送協会、日本ビュアシステム、キューブシステム、数研出版、日本マーケティング研究所、アイテック阪急阪神、神戸新聞社、システナ、メディア・パスターズ、ディアンドアイ情報システム、富士ソフト、日立ソリューションズ・クリエイト、ニッセイコム、G&Uシステムサービス、アトラス情報サービス、ケイ・オブティコム、日本システム技術、中央コンピューター

<製造業>

富士通、島津製作所、堀場製作所、一丸印刷所、ノバルティスファーマ、中西金属工業、住友電気工業、大王製紙、呉竹、ヤッホーブルーイング、トヨタ自動車、コニシ、川崎重工業

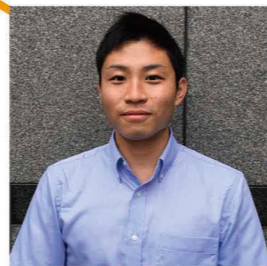
<広告代理店・学術研究専門・技術サービス業>

大広、アイレップ、アド近鉄、エン・ジャパン

教員

かわにしよ た
川西陽太さん

表現文化コース・2016 年度卒業



Q.なぜ教員になろうと思ったのですか？

A. 特別なきっかけはありません。ただ日頃から自分は、多くの人たちとのかかわりのなかで育てられてきたと感じていました。そこで、今後は自分がそんなかかわりの場を提供し、誰かを照らす存在になりたいと考えたとき、教員という選択肢に辿り着きました。

Q.文学部での学びは現在のお仕事にどのように活かされていますか？

A.「国語で何を学ぶか。」私が大切にしていることの一つです。単に教科書の内容を読み解くのではなく、そこから何を感じ、考え、人生の糧としていくか、そんな機会を用意することが国語の役割ではないかと考えています。ただ作品の表面をさらうのではなく、様々な視点から分析することで、社会や集団の価値観、感性に触れる、それらが自身の生活を豊かにする。すべて文学部で得た経験です。そんな経験を生徒たちとも共有していきたいと思っています。

大学を出てからのことなんて考えるのはまだ早い？本当にそうでしょうか。

どんな道に進んだ人が多いのか。どんなきっかけでその道に進んだのか。

社会の最前線で活躍しているOB・OGの方々の「生」の声と情報を、ほんの少しだけ早く知ることによって、新たな何かが見えてくるでしょう。



公務員

つぼもと みさき
坪本実咲さん

地理学コース・2016 年度卒業

Q.なぜ公務員になろうと思ったのですか？

A. フィールドワークの際に公務員の方にお話を伺うことが多く、住民の生活を陰で支えている公務員という仕事に興味を持ったことがきっかけです。その後、就職活動を通じて、自分になじみの深い地域に貢献したいと考えようになり、公務員になりました。

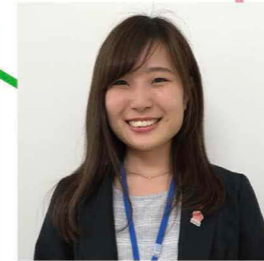
Q.文学部での学びは現在のお仕事にどのように活かされていますか？

A. 文学部では、自分の専攻以外でも興味・関心のある分野の授業を幅広く受けられたことで、物事を様々な角度から見る癖がついたことが業務のなかで活かされていると思います。私の所属する部署では住民のみならず民間企業の方ともかかわる機会が多いため、役所という立場からだけでなく、「別の視点から見るとどうなのか」を意識し、自分の目や耳で確かめ、考えることの重要性を日々実感しています。

民間企業

おかもと さつき
岡本颯季さん

言語応用コース・2016 年度卒業



Q.就活について、体験談やアドバイスなどはありますか？

A. 自分のやりたいことや得意不得意を明確にして、歳の離れた大人にPRするなんてことは今までの人生で経験がなく、自分の可能性を見つめなおすいい機会でした。辛い思いもしましたが、自分の主張が面接官にきちんと伝わると嬉しいものです。息抜きを大切にしつつ、がんばってください。

Q.社会人生活と学生生活の違いは何ですか？

A. 学生の間は自分のために教育を受けていたのに対し、社会人が教育を受けるのは将来的にその会社の役に立つため、何かを覚えてもらうのにも責任が生じるようになります。そういう意味で、学生時代よりも強くアンテナを張り巡らせて過ごすようになりました。体調管理にも気を遣うようになり、以前はいろいろ無茶もしましたが、今では毎日健康的な生活になりました。

大学院

なかで あきとも
中出明知さん

教育学コース・2015 年度卒業



Q.なぜ大学院に進まれたのですか？

A. 私は卒業論文で、大西忠治という教育実践家の理論について、文献を用いて研究しました。しかし、教師になりたいと考えていたことから、学校現場での研究も行ないたいと思い進学しました。ただこれは、勉強するうちに考えた理由で、初めに大学院に興味を持ったきっかけは、先生方が「院生からは対等な研究者になる」とおっしゃっていたことからでした。

Q.大学院では何を研究されていますか？

A. 現在は、子どもが自分のクラスで受け入れられていると感じられるような居場所づくりについて勉強をしています。そして、小学校で行なう学級会が居場所づくりにつながるということを目の当たりにするために、小学校で学級会を観察し、担任の先生にインタビューをさせていただきながら研究をしています。